



※文字の大きさは Meiryo UI / 12ポイント以上とし、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※各項目の枠の幅は変更可能ですが、必ず A3用紙片面におさまるように作成してください。
 ※画像、写真、イラスト等は、用紙の中におさまるようにし、ファイルサイズは5MB以下としてください。

【様式2】

<p>研修成果の活用レポート/NITS 大賞エントリーシート</p> <p>※研修成果の活用レポートは、NITS 大賞エントリーシートと同様式です。NITS 大賞に応募される方は、推薦者への提出とは別に、<award@ml.nits.go.jp>宛て、メールにてお送りください。なお、メール送信後、3日以上受領メールが届かない場合はご連絡ください。</p>	<p>※事務局記入欄</p> <p>受理No. : C-40</p>
<p>【学校名・氏名】 高山小学校・千原一弘</p> <p>【修了研修名】 平成30年度 第一回校長研修</p>	<p>【応募部門】 地域とともにある学校 実践部門</p>
<p>【活動名】 これからの学校のあり方 ~Win & Winの関係づくり~</p>	
<p>解決すべき課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 校区内の教育資源を効果的に取り入れていない。活動はたくさんしているが、学習になっていない。 2) 学校と地域が Win & Win の関係になっていない。3つの小学校が統合した結果、校舎が建っている地域とそうでない地域にサービスの差が生じている。 3) 教職員が校区のことを知らない。地域の行事に興味がなく、参加しない。 	
<p>目標・方針</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 「灯台下暗し」「故きを温ねて新しきを知る」身近なところに教育資源は転がっている。地域の歴史・伝統文化を知ることによって未来の高山小学校が見えてくる。地域共創の学校づくり。 2) 「下手な鉄砲も数撃ちゃ当たる」失敗しても、くじけずあの手、この手と作戦を考えて地域の方に学校に来てもらい、子どもたちの様子、教職員の働く姿を見てもらうことで、地域との信頼も構築できる。 3) 「親しき仲にも礼儀あり」地域の方が学校のためにと様々な支援をしてくれている。教育公務員として接遇マナーを失することなく、地域と学校を Win & Win の関係にする。 	
<p>活動内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域に信頼される学校のための基盤づくり「高山小スタンダード」「マナーキッズ教室」「チラシ大作戦」 <ol style="list-style-type: none"> ①接遇マニュアル「高山小スタンダード」の作成 (電話でのやりとり、来客対応、湯茶の出し方、早退・欠席への対応、日直の仕事 etc.) ②マナーキッズ教室の開催 (小笠原流礼法指導、体幹遊び、マナーキッズ指導者養成講座への参加) ③折り込みチラシ、ページング放送等による広報活動の実施 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div data-bbox="172 1522 510 1900" style="width: 30%;"> <p>【電話でのやりとり】</p> <p>①心構え ①電話は顔の見えないやりとりであり、相手からは学校の代表として見られていることを忘れず、他の作業を中断して電話を取る。 ②明るく、大きめの声で、聞き取りやすいスピードで話すこと。</p> <p>②マナー ①電話は、2コールまでである。3コール以上で出た場合は、「大変お待たせいたしました」とお詫言をする。 ②電話に出た時「高山小学校、〇〇でございます」と、学校名と自分の名字のみを伝える。 ③相手の要望にのっとるときは、相手の所属と名前をしっかりと確認すること。 ④相手に失礼が無いように「高山小学校〇〇が承りました」と言って切る。 ⑤電話を切る際は、相手に切ったのを確認してから電話機を置く、ガチャと切らずにそっと置く。</p> <p>③相手からの不承の場合 ①電話が切れたことを、担当者にメモなどで分かりやすく伝える。 ②メモでは次のことを記録する。 ③いつ ④相手の所属、担当者名 ⑤要件、返さなければいけない確認事項を記録する。 ⑥対応者の名前 ⑦相手に失礼が無いように「高山小学校〇〇が承りました」と言って切る。 ⑧緊急の場合は、すぐに担当者へ連絡をする。その際、メモの①～⑤を簡潔に伝える。</p> <p>高山小スタンダード</p> </div> <div data-bbox="569 1522 836 1900" style="width: 30%;">  <p>マナーキッズ教室</p> </div> <div data-bbox="926 1522 1320 1900" style="width: 30%;">  <p>配付したチラシの一部</p> </div> </div>	

2) 地域の教育資源の整理と教育課程への位置づけ...年間指導計画に位置づけ、ねらいや付けたい

力を明確にする。【教務部と学年部】

- ①歴史・伝統文化（石見銀山、花田植え、シャギリ、シッカク踊り、城下町町並み）
- ②自然（学校林：みどりの道、珍しい生き物：ギフチョウ、イズモコバイモ、カンアオイ）
- ③産業（石州瓦、宮大工、福祉施設）
- ④人材（地域コーディネーター→歴史に詳しい人、栽培活動を手伝ってくれる人、読書ボランティアなど）

	低学年	中学年	高学年
地域の教育資源	生活科：まちたんけん 栽培活動	社会：瓦工場見学 総合：福祉施設	社会：井戸碑巡り 図工：秘密基地づくり 総合：ギフチョウ
学校林（みどりの道）	特別活動：ネイチャートレーニング（学）、森の学習（学）、イズモコバイモ・カンアオイ栽培（児）		
	みどりの道での体力づくり（課外）		

3) 講師を招聘してのフィールドワーク【研究部】～大代地区にある旧校舎で学習【教務部】

- ①元大代小学校校長歴史民俗学会 会員 多田房明先生による講話とフィールドワークの実施



大代の町は宿場町として、かつて、大いにぎわっていた。



石州瓦工場の学習は、大田市作成の副読本に載っている。

- ②「大代 Day」旧大代小学校校舎での学習
市教育委員会にお願いし、子どもたちが入ったことが無い旧校舎で学習する。事前に大掃除を学校職員と地域の方で行い、環境を整えて旧大代小学校に登校して学習する。地域のフィールドワークをする学年や地域の人と交流する学年など、この日は、大代地区の住民は自由に参観できるようにし、チラシやページング放送で参加を募った。

活動の成果：

- ①地域の教育資源が、計画的に学習に取り入れられた
- ②教職員が、地域の方の名前と顔が一致するようになった
- ③子どもたちに大代地区の魅力を伝えることができた
- ④地域の方が授業を見に高山小学校に来校する数が増えた
- ⑤全国緑の少年団活動発表大会で発表する機会を得ることができた。







アピールポイント（アイデアや工夫）： 現状に満足しない。昨年度のさらに上に行く！そのために...

- ①基盤づくりにおいて、教育公務員としての資質やマナー、規範意識を自覚し身に付けることは、地域や保護者と信頼関係を築き、業務改善にもつながることを説明した。全教職員で、KJ法で接遇等の課題を洗い出し、改善策を考えた。それを「高山小スタンダード」としてまとめることができた。
- ②それぞれの活動は、昨年度にはない新たな試みなので、校長がビジョンを示し、活動ごとにチームで検討、立案するようにした。一方で教頭が業務改善に関わるアンケート調査を行い、同時進行で業務改善も図った。
- ③外部の力を借りた。講師を招聘したり、市教育委員会や公民館などの力を借りたりして、高山小学校教職員だけの力ではできないことを行うことができた。